

授業概要

この『政治学』においては、我々の生活を直接・間接に取り巻く「政治」に対する「政治学」的な視点を養うことを目的としている。鳥瞰的な物事の捉え方を学び、またその分析枠組みを提供するのが「政治学」という学問の目的の一つである。

「政治」あるいは「民主主義」が機能不全を起こしていると指摘されるようになって久しいが、そうした議論が「前提」としているのは「代表制(あるいは代議制)民主主義」であり、その前提を疑う議論が現出しているのが昨今の状況であるといえる。まずそうした議論の見取り図についての理解を深めていきたい。

また、具体的な政治上の問題として医療や年金といった社会保障システムと財政の問題を検討していく。世の中の基本的なしくみ(あるいは人々の考え方)を理解してもらうことを目標とし、そして、そうした営みが「政治」とは何を目指すべきものなのか、といったより大きな課題を考える契機になれば、と考えている。

授業計画

第 1 回	講義の概略
第 2 回	民主主義論(1) ~ 現行OSとしての代表制民主主義(選挙制度を中心として)
第 3 回	政治過程論(1) ~ 政治過程と政治参加
第 4 回	政治過程論(2) ~ アクター論、コーポラティズムとコーポラティヴィズム
第 5 回	民主主義論(2) ~ 参加民主主義・・・熟議民主主義・闘技民主主義
第 6 回	民主主義論(3) ~ 新たな民主主義の模索・・・QV・液体民主主義・くじ引き民主主義など
第 7 回	国民国家主体(1) ~ 国際政治とグローバル政治
第 8 回	国民国家主体(2) ~ 国民国家の生成・発展プロセス
第 9 回	イデオロギー(1) ~ リベラリズム、ニューリベラリズム、ネオリベラリズム
第 10 回	イデオロギー(2) ~ 再分配政策とリパタリアニズム
第 11 回	福祉国家論(1) ~ 日本の社会保障制度
第 12 回	福祉国家論(2) ~ 福祉国家と財政、グローバリゼーション
第 13 回	福祉ガバナンス ~ ウェルフェア、ワークフェア、ベーシック・インカム構想
第 14 回	国際安全保障システム
第 15 回	非国家主体の役割
第 16 回	筆記試験

到達目標

- ・昨今、機能不全を起こしつつあるとされる「民主主義」について、さまざまな捉え方・考え方が存在することが把握・理解できる。
- ・思想的な対立構造の理解および「政治過程論」を中心とする現代政治学の基本的分析枠組みの習得できる。

履修上の注意

レポートの提出規定などを伝達するので、第一回の授業には必ず出席して下さい。(やむを得ない場合は第二回時に初回時の欠席理由を告げること。)

定期的に「小テスト」を実施します。それまでの内容を復習・理解しているかを問う内容なのでしっかりノートを確認しながら復習していくようにしてください。

また、一度たりとも欠席はしないという覚悟の上で履修登録を行なって下さい。病気・就職活動等による欠席も無条件での出席扱いとはしません。レポートの課題を出しますので、それが提出されてはじめて出席扱いとなります。

予習・復習

コロナ禍を契機として、受講者がオンラインによって事前に知識を習得しておき対面授業においてはディスカッションを中心に学習を進めるといいうわゆる「反転授業」が注目されてきています。

一方で毎年のように「授業アンケート」で評判が悪いのは黒板への板書に関することです。

ディスカッションまで進めるつもりはありませんしすべてを同じ形式で行なう予定ではありませんが、時間の節約という面からも当該授業での学習内容を事前に Teams にアップロードしておき受講者にはそれをもとにして予習しておいてもらうという形式を一部取り入れたいと考えています。(※授業時に携帯端末を閲覧できないケースも考えられるので、時間的に余裕をもたせてアップロードするなど検討・試行していく予定です。)

評価方法

上記の「小テスト」(30%)・学期末の試験の点数(60%)、ならびに授業態度(積極的発言等 10%)で総合評価します。

テキスト

「教科書」としては特に指定しませんが、参考文献等は授業中に伝達します。それらの中からレポートを課す予定なので、その意味でも授業には毎回出席するようにしてください。